

週刊レキオ

1988
2月5日 No. 149
Lequio

大交遊時代、ボルトガルは、海洋国
愛・足球をレキオと呼んだ一
文化の十字路が、いま、見えてくる
発行：週刊レキオ社 ©
〒900 那覇市泉崎1の21の10
電話：(098) 65-5291代
印刷：琉球新報社
毎週金曜日発行

私のシーサー〈134〉

「ボクのお父さん、シーサーづくりの名人です。これはボクをモデルにしたシーサーなんだよ。おじいちゃん、おばあちゃん、似てるでしょ。」(宮古郡下地町与那覇・金城敏信さん撮影)
このコーナーはみなさんが撮ったシーサーを募集。コメントも添えて下さい



- 5 大安・大朝 (12/18)
- 6 赤口・中潮
- 7 先勝・中潮
- 8 友引・中潮
- 9 先負・中潮
- 10 仏滅・小潮
- 11 大安・小潮 (福徳忌日)
- 12 赤口・小潮 (レキオ祭)

街の片隅に忘れられたまたたき人である「メイト」の石像「ソニー坊や」と編集者がつき合うようになってかれ二年になろうとしている。
「ソニー坊や」に関心を持つようになったきっかけは、ある読者からの電話だった。細かい雨が降り始めた一昨年のある土曜日の午後、帰り支度を始めた編集部旧式フロッピー電話があつ、しまったあ、忘れてたよという感じで思い出したようにけたましく鳴ったのだ。
「取材してはいるものがあるんですけど、今でも覚えているさだまさしのような細かい声。」
自分は本土の大学へ入学してまして、大都会で生活してなんです。
あつそうですか、なんて相づちを軽く打つたらいけないよ、などと思いがらとにかか聞いてみよとこちらは決意したのだ。

「もしたら、身も心もすっかり疲れた感じになってしまったんです。」
「一瞬、この御仁は「人生相談コーナー」と勘違いしているのではないと思つたわけ。ある日のこと、ふるさと沖繩がたまらなくなつたかしくなり、思い切つて里帰りしたんです。そうしたら、どうでしょう。こちらもあつという間に様子が変わっているではありませんか。」
「おつ、分かったぞ、この人は「ふるさと沖繩のなつかしい風景」かなんかの特集をやつてほしいんだぜ、きつと。」
「ため息をつきました。残念な気持ちで歩いていると、いつしか自分が通つた小学校への通学路を歩いていたのですね。」
「あつ、そうか、ふるさと沖繩のなつかしい風景ではなくて、なつかしい母校の風景をやつてほしいのか。」
「そのときです。あつたんですよ。そのままだった。」



「ソニー坊や」を
知っているかい

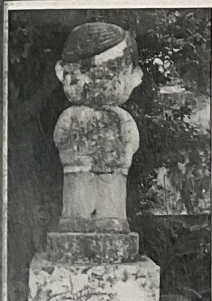
「子どものころのまま、自分が小学校に通っていたときと同じまま、ソニー坊や」が道端に残つていたんです。うれしかったなあ。帰つてきてよかったと思つたんだよなあ。おつ、いい話でしょ、だから「ソニー坊や」の特集をやつて下さい。」
「ソ、ソニー坊や? 特集をやつて下さい、といったつてあんな。」
それからおよそ半年後の昭和六十一年一月、わがレキオは第81号「特集・街のなかの「ユーモア」の一隅で、ちよこつと「ソニー坊や」の写真と解説、それに「ソニー坊やが身近に残っている方は略図を送つてくれませんか」というメッセージを載せたのだった。するとどうだろう。

生みの親は漫画家。
岡部冬彦さんだった

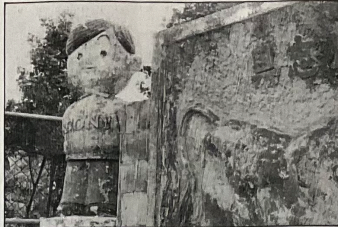
本島に6ヶ所現存していた

目もと美人誕生。

初代編集長：鈴木孝史さま提供
日本アートマージョ



今帰仁村の仲原馬場近く



具志川市の安慶名闘牛場横板橋



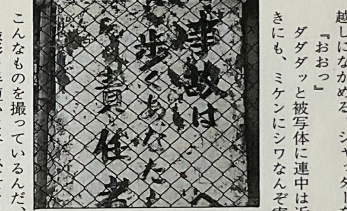
(1面から)
いままでと全く反対のケースで、つまり、記事が出て、パッと反応が表れるというより、忘れかけたときになつかしい友人の便りが届くように略図入りのハガキが各地から舞い込んだのであった。
読者のお便りを手掛かりに取材してみようと、「ソニー坊や」は本島六カ所に残っていた。

西原町の「中部製糖」入口左 糸満市の名城ビーチ内プール横

とも「(沖縄テレビ・月・金正午から)で、ソニーのビデオテープ「ベータ」を話題にして、いつかときに司会のタモリとレギュラーの白石さんとき「オレたち、ソニー坊やで育ったの」という発言をしたそうだった。
そのくらいの世代、つまり中年予備軍にはなつかしいのだ。逆にいえば、かなり若い世代は「ソニー坊や」をほとんど御存知ない。
「いま小学生ならなおさらである。
今帰仁村の仲原馬場近く」の「ソニー坊や」を取柄としたときのことである。
ちょうど下校時間と重なったようので、小学生たちの群れが、家路を急ぐ、というより、家路を歩きます。感じて「ソニー坊や」のランドセルを肩ではなく首からかけたらしら、カギが掛かっているような横歩きをしながらしゃべっている半ズボンなど。
そんな一群が歩道を行くなか、わが編集部の手帳に「ソニー坊や」の「ソニー坊や」の前で、正確にいうとその歩道の前でおおっ。



糸満市の名城ビーチ内プール横



宜野湾市の市民広場向かい付近

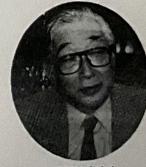
北から、今帰仁村の仲原馬場近く、「本部町の謝花入口近く」、具志川市の安慶名闘牛場看板橋、「野野湾市の市民広場向かい付近」「西原町の中部製糖入口左」、「糸満市の名城ビーチ内プール横」。
佐敷町に最近まで残っていたらしいが、とうとう確認できなかった。
ところで、「ソニー坊や」になんらかの思い出を持つ世代は三十歳前後から上のようだが、「ソニー坊や」を知っているか、とたずねたところ、三十歳前後で一線を画した。
片方は、えつ、とまず見開いた目を少しずつ細めてほほえみ、もう一方は、何のこともと口を半開きにしたままだったのである。
そういうえば、人気テレビ番組「笑っていい

中年予備軍にはなつかしい

「まだ沖繩には残ってるの?」
そもそも「ソニー坊や」とは何なのだろう。胸のマークからソニーのロゴマークであることは想像がつくのだが、それ以上の背景は分からない。
だが、一気にそのルーツが分かった。
「ソニー坊や」の生みの親は「ちびっこギャング」などの作品で知られる著名な漫画家・岡部冬彦さんだとのことである。
岡部冬彦さんだとのこと、主婦の生活大学(琉球新報社主催)の講師として来沖。講演前夜、某海産屋での談笑中に「ソニー坊や」の話題

こんなものを撮っているんだという表情だ。撮影を短かに終え、車にさっと乗り込み、スター。
ルームミラーをのぞき込むと、「ソニー坊や」を前に小さな後頭部群はそのままだままなのであった。
「ソニー坊や」はこのように過去のものなのである。
「ソニー坊や」とは何なのだろう。胸のマークからソニーのロゴマークであることは想像がつくのだが、それ以上の背景は分からない。
だが、一気にそのルーツが分かった。
「ソニー坊や」の生みの親は「ちびっこギャング」などの作品で知られる著名な漫画家・岡部冬彦さんだとのことである。
岡部冬彦さんだとのこと、主婦の生活大学(琉球新報社主催)の講師として来沖。講演前夜、某海産屋での談笑中に「ソニー坊や」の話題

驚いたのは、「ソニー坊や」と「ミニカエコノ」のちよと時間を歩いていた小学生たちだった。
彼らは、車のドアに書かれた「週刊しんぶん」の文字をみとめるや車窓をのぞき込んだ。
「おおっ」
なんの騒ぎかと思つたら、助手席に置いてある「ソニー坊や」を見て、カメラだぜ、なんていつているようなのだ。そんなに珍しいか。
前後の交通を確認してドアを開け、車を降りる。
「おおっ」
「出てきたぞ」なんて感嘆した言葉も。ゴジラか、オレは、
無視して、「ソニー坊や」をファインダー越しにながめる。シャッターをきる。
ダダダと被写体に連中は近づき、なまじきにも、ミケンにシワなを寄せて、なまじ



岡部冬彦さん



岡部冬彦

が飛び出したのだ。
その話を聞いて、さっそく編集部は宿泊先のハーバービューホテルを訪ねてインタビュー。
「ソニー坊や」は、昭和三十一年から四十四年まで週刊朝日に連載した人気漫画「アッチャーン」がモデルなのだそうである。
連載を始めて二、三年後(三十三、三十四年)に「ソニー」がキャラクターとして使いたいと申し出てきたんです。原形は、ボクの後輩の彫刻家がつくった。日本中で宣伝に使われたはずですよ。三十四年から四十年にかけて、「ソニー」から「ポリーナス」でアメリカ旅行をさせてもらいましたが、向こうでも店頭行のソニー製品の横に「ソニー坊や」のミニチュアが飾られていましたよ。
岡部さんの作品は、講談社の「昭和まんが史のヒーローたち」を見ると高度経済成長期の代表的な作品群の冒険で紹介されています。「もはや戦後ではない」とか、「核家族」「経済成長」「パラオの中間層」とかいわれたころでした。その時代に「アッチャーン」は合ったんだと思うんですけど、そこらへんに目をつけたのかもしれませんね。
編集部は、「ソニー坊や」を撮った写真一葉と、情報と略図をした読者からのハガキをプレゼントした。
「まだこれが残っているとはね(本土では全然見ていない。なつかしいな)。
そして岡部さんは、レキオ紙面用にと快く「ソニー坊や」を色紙に描いてくれたのであった。
二年前、細かい雨が降る土曜日の午後、電話を掛けてくれたさだまさし(声に似た読者の方、どこかでこの絵をご覧になっています)か。

「ソニー坊や」は、昭和三十一年から四十四年まで週刊朝日に連載した人気漫画「アッチャーン」がモデルなのだそうである。
連載を始めて二、三年後(三十三、三十四年)に「ソニー」がキャラクターとして使いたいと申し出てきたんです。原形は、ボクの後輩の彫刻家がつくった。日本中で宣伝に使われたはずですよ。三十四年から四十年にかけて、「ソニー」から「ポリーナス」でアメリカ旅行をさせてもらいましたが、向こうでも店頭行のソニー製品の横に「ソニー坊や」のミニチュアが飾られていましたよ。
岡部さんの作品は、講談社の「昭和まんが史のヒーローたち」を見ると高度経済成長期の代表的な作品群の冒険で紹介されています。「もはや戦後ではない」とか、「核家族」「経済成長」「パラオの中間層」とかいわれたころでした。その時代に「アッチャーン」は合ったんだと思うんですけど、そこらへんに目をつけたのかもしれませんね。
編集部は、「ソニー坊や」を撮った写真一葉と、情報と略図をした読者からのハガキをプレゼントした。
「まだこれが残っているとはね(本土では全然見ていない。なつかしいな)。
そして岡部さんは、レキオ紙面用にと快く「ソニー坊や」を色紙に描いてくれたのであった。
二年前、細かい雨が降る土曜日の午後、電話を掛けてくれたさだまさし(声に似た読者の方、どこかでこの絵をご覧になっています)か。

「ソニー坊や」は、昭和三十一年から四十四年まで週刊朝日に連載した人気漫画「アッチャーン」がモデルなのだそうである。
連載を始めて二、三年後(三十三、三十四年)に「ソニー」がキャラクターとして使いたいと申し出てきたんです。原形は、ボクの後輩の彫刻家がつくった。日本中で宣伝に使われたはずですよ。三十四年から四十年にかけて、「ソニー」から「ポリーナス」でアメリカ旅行をさせてもらいましたが、向こうでも店頭行のソニー製品の横に「ソニー坊や」のミニチュアが飾られていましたよ。
岡部さんの作品は、講談社の「昭和まんが史のヒーローたち」を見ると高度経済成長期の代表的な作品群の冒険で紹介されています。「もはや戦後ではない」とか、「核家族」「経済成長」「パラオの中間層」とかいわれたころでした。その時代に「アッチャーン」は合ったんだと思うんですけど、そこらへんに目をつけたのかもしれませんね。
編集部は、「ソニー坊や」を撮った写真一葉と、情報と略図をした読者からのハガキをプレゼントした。
「まだこれが残っているとはね(本土では全然見ていない。なつかしいな)。
そして岡部さんは、レキオ紙面用にと快く「ソニー坊や」を色紙に描いてくれたのであった。
二年前、細かい雨が降る土曜日の午後、電話を掛けてくれたさだまさし(声に似た読者の方、どこかでこの絵をご覧になっています)か。

人生の節目卒業。二度とない青春の素晴らしい思い出に。今からでも間に、初代編集長：鈴木孝史さま提供 頑張れ受験生！ 88年度 受験士口拾ノフ

卒業記念旅行 受験生プラン 受付中

週刊レキオ

1988
8月5日 No. 175
Lequio

大正昭和時代 ポルトガルは、西洋国
家・野球をレキオと専んだ
文化の十字路が、いま 見えてくる
発行：週刊レキオ社 ©
〒900 那覇市泉崎1の21の10
電話 (0988) 65-5291代
印刷：琉球新報社
毎週金曜日発行

私のシーサー

1159

「優しいシーサーさん、
ちょっと一休みさせて下
さいな」「どうぞかわい
いスズメちゃん」(南風原町
与那覇・真喜志康徳さん撮
影)

<このコーナーではみなさんが撮ったシー
サーを募集。コメントも添えて下さい>



- 8/5 ⑧ 仏滅・小潮 (186/23)
- 6 ⑨ 大安・小潮 (広島原爆記念日)
- 7 ⑩ 赤口・小潮 (立秋)
- 8 ⑪ 先勝・中潮
- 9 ⑫ 友引・中潮 (長崎原爆記念日)
- 10 ⑬ 先負・中潮
- 11 ⑭ 仏滅・大潮
- 12 ⑮ 先勝・大潮 (レキオ発行)

よみがえった ソニー坊や像

～交通安全の祈りを込めて～



「交通安全」の文字もくっ
きりと＝具志川市・安慶名
闘牛場付近



志川市役所



「交通安全」の文字もくっ
きりと＝具志川市・安慶名
闘牛場付近

「中年予備軍」にとつてはなつかしいキヤ
ラクターだが、いまの子供たちには、交通安
全のお兄さん像として心に残って行くかもし
れない。

ところが最近、ある篤志家の手で塗りかえ
られ、「交通安全」の大きな文字とともに輪
襦から子供たちを守る守護神に生まれかえっ
たのだ。

だが、特集を掲載した当時の像は、塗料が
はげたり、ツタがからまっていたりで、つり
上げた左眉毛に、どこかさみさが漂ってい
た。

「まだこれが残っているとね。本土では
もう全然見掛けない。なつかしいね」来沖
したとき、「ソニー坊や」像の写真を手にし
て、岡部さんはなつかしかった。

ところが、特集を掲載した当時の像は、塗料が
はげたり、ツタがからまっていたりで、つり
上げた左眉毛に、どこかさみさが漂ってい
た。

三十年代から四十代の「中年予備軍」にとつ
てはなつかしい「ソニー坊や」像が県内七カ
所に現存し、モデルになった当時の人気マン
ガ「アッチャー」の原作者・岡部冬彦氏がそ
れを聞いてたいへん喜んだという特集を小紙
149号(二月五日付)で掲載したが、いつ
のまにかきれいに化粧直された。

「ソニー坊や」像があるのは、北から、「今
帰仁村の仲原馬場近く」「本部町の謝花入口近
く」「具志川市の安慶名闘牛場近く」「沖縄市
の北美小学校前」「宜野湾の市民広場から普
間向け沿道」「西原町の中部製糖人口付近」「糸
満市の名城ビーチ内「プール横」」の七カ所
そのほとんどが再塗装されている。

岡部さんによると、「アッチャー」は昭和三
十一年から四十三年に掛けて週刊朝日に連載
され、開始して二、三年後にソニーがキョウ
クターとして使いたいと申し込んできたとい
う。「ソニー坊や」像の原型は、岡部さんの後
輩に当たる彫刻家の手掛けたそうだ。そして、
日本中のあちこちに建てられていった。

シリーズ Vol.14 キネマ探偵団 VS レキオ編集部

映画の見方をめぐる論楽会

(2・3面)

初代編集長：鈴木孝史さま提供

歯科医院

週刊しんきお

1988
6月10日 No. 167
Lequio

大交戦時代、ポルトガルは、海洋国家・琉球を「しんきお」と呼んだ—
文化の十字路が、いま、見えてくる
発行：週刊しんきお社 ©
〒900 那覇市泉崎1の21の10
電話 (0988) 65-5291代
印刷：琉球新報社
毎週金曜日発行

私のシーサー (151)

「身の丈1メートル余りのウブシーサーが玄関の上から大きな口を開きへいげいしている。その雄姿は集落の守り神の貫禄十分である。赤瓦でないのが残念であるが、異和感はない。この家の主人の思いが見えるようである。奥村落にて」
(那覇市若狭・東恩納寛英さん撮影)



- 10 大安 中潮
- 11 赤口 中潮
- 12 先勝 中潮
- 13 友引 大潮
- 14 大安 大潮
- 15 赤口 大潮
- 16 先勝 大潮
- 17 友引 中潮



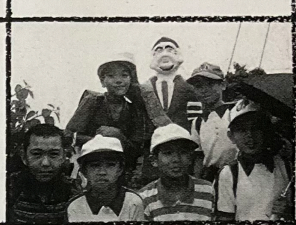
豊見城市・上江田小学校門付近に放置されていた「おまわりさん」は、同村の長嶺小学校近くに



糸満市・与座で放置されていた「おまわりさん」も今はませそそ＝南風原町・北丘小学校



「おまわりさん人形。修復作業中の真喜志康徳さん



糸満市・高嶺小学校近くの「おまわりさん人形」



南風原町・中央府立園向かい

おまわりさん人形、甦る

南風原町の篤志家、真喜志康徳さんの手で

に届くだろう。か。
今年交通事故発生件数は千六百八十七件。昨年の同時期に比べて二十一件の増加となっている（二日現在）。

現在修復済みなのは糸満市、東風平町、南風原町など、南部地区の「おまわりさん人形」だけだが、真喜志さんは「時間があれば石川市や読谷村に残っている人形も奇麗にしてあげたい」と語っている。

「人の心がさすんできたといわれる現代だからこそ、子供たちの交通安全のために無償で人形を作り続けた中村さんの思いを一人でも多くの人に伝えることができれば……」

少しても子供たちの交通事故防止に役になりたい。今から約一十年前、東風平町に住む当時七十三歳の中村信彦さん、故人が心を込めて作り、ほぼ本島全域にわたって約百二十余体が設置された「おまわりさん人形」。

よみがえ

レンタル プティック
G21st
〒900 那覇市入道地3-7-10 (星見台3)
TEL. 0988-67-2772

今度の、御招待のドレスアップは、マニッシュな装いで決めてみませんか。より個性的に。フォー・マル・イン・21st

初代編集長：鈴木孝史さま提供

AZZARO